

申請事由書  
千住いえまちプロジェクト  
～古い千住を新しく活用する～

1. 事由（プロジェクト発足の経緯）

千住の旧道を中心とした地域では、昭和もしくはそれ以前の建物（店舗付住宅や民家、蔵など）や路地の存在が千住らしい街並みや雰囲気を残しています。それらはバブル期の地上げは逃れたものの年々減少し、残されていても多くは文化財には届かず、相続などにより少しずつ解体・建替が行われているのが現状です。路地を含めた千住らしい古い街並みが失われつつあるのです。

このような現在の千住に危機感を感じた30～40歳代の若手居住者が中心に集まり、街並みの消散を防ぎつつ、新たなアイデアで建物や軒先などを活用する新しいプロジェクトとして立ち上がりました。

2. プロジェクトの目的

- 1) 千住の街並みの調査・記録を通して、千住の魅力を客観的に把握する
- 2) まち歩きやマップ制作等の情報発信を通して、千住の魅力を共有し、建物や街並みの消散を食い止める
- 3) 建物や軒先等の空間をギャラリーや教室、イベントスペース、住居として、活用を実践的に検討する
- 4) 以上より千住内外の人的交流をはかり、街並みを活用の情報発信や窓口の常設化をめざす

3. プロジェクトによる効果

- 1) 千住らしい街並みの調査から記録資料を作成し、データベース化して千住内外で共有する
  - ⇒ 千住における昭和の街並みに関する資料や魅力にスポットをあてる（これまで着目されてこなかった）
  - ⇒ 千住の歴史や建築・街並みの調査報告など、基礎資料・情報への敷居が下がりアクセスしやすくなる
  - ⇒ 千住に関する正確な三次資料（まちの紹介など）の作成が容易になり、発信力が上がる
  - ⇒ 活用希望者への価値意識を高めるツールとなる
- 2) 情報発信により、活用実践例を共有し、活用希望者を千住に誘導する
  - ⇒ まち歩き等により千住を知る機会が増える
  - ⇒ ペーパーやWeb等を通じた、コンタクトの接点が増える
  - ⇒ 小イベント（活用実践）や勉強会、研修を通じて、具体的なイメージを喚起する
- 3) 建物オーナーとの交流を通じた意識を共有する
  - ⇒ 建物活用の可能性を探るなかで防災への意識を高める（耐震診断や改修につながる可能性）
  - ⇒ オーナーや居住者との交流、建物情報の共有を通じ、コミュニティが強化され、防災・防犯性が高まる
  - ⇒ 地域への愛着が高まり、住環境マネジメントへの意識が高まる
  - ⇒ 建築協定や地区計画等を検討する下地ができる
- 4) 発展的な街並みの保存・活用・持続や人的交流を通して、千住における諸活動に相乗効果が生まれる
  - ⇒ 千住のイメージアップ・活性化が見込まれる
  - ⇒ 建物所有者や千住の活動諸団体との連携（まちづくりの協議体制）につながる

4. 具体的活動内容

■調査・記録

- ①資料収集：建物・街並みに関する既存資料（文献、調査報告書等）を収集する
- ②街並み調査：昭和以前の建物を対象に所有者や居住者への聴きとり調査や実測調査、簡易劣化調査を行う
- ③資料の活用：①②資料のデータベースを構築し、公開する

■情報発信・共有

- ④まち歩き：千住内外の人に千住の魅力を伝える／活用希望者や他団体との交流を行う
- ⑤紙媒体発信：発信する紙媒体（冊子／マップ）を制作し配布する（キーマン、書店や公共施設等へ）
- ⑥Web発信：活動内容を発信するホームページやFacebook等のSNSにより接点を増やす

■実践的検討

- ⑦空間活用：建物・街並みを活用するための小イベントを試行する
- ⑧勉強会研修：先行事例の共有、視察、意見交換等を行う（建物オーナーや活用希望者を対象に）
- ⑨未来へ展開：活用窓口創設（とりつぎ、管理・運営）、千住地区他団体との連携を検討する